（大正十年四月二十二日 第三種郵便物認可）　昭和十五年十一月二十二日　磐城毎日新聞　（金曜日）　第五千九百七十九號　［一］

二十一日夕刊

# 磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月 金六十錢
□郵税 金十五錢
□一部賣 金三錢
□廣告料 行 金六十錢
□雜報欄 行 金九十錢
□場所指定一行 金一圓增
□電話（平）七八六番
□振替口座仙台一〇八五六
福島縣平市田町十六番地
發行所 磐城毎日新聞社
編輯兼發行人 岡田弘成

## 隨筆 龍膽の花さく頃

志貴桂石

［五］

いまは小川の幅を少し廣くしたほどの小さな川になつてゐるが、その昔は、富ノ小川と云つて、相當に廣い河であつた。長髓彦を討伐すべく、神武天皇が手勢を率いてこの河を北上遊ばされたことをなにかの本で讀んだことがある。また、この河の近くに、日本武尊の斑鳩宮があつた。

きらびやかな着飾つた貴人達が、この河のあたりへ集つて、春は花見に、夏は夕涼みに、秋の紅葉狩りと、たはむれ遊んだことであらう。が、今はすべて地の底に埋つて、昔偲を忍ぶよすがもない。

小泉の里、庚申塚の裏へ出て、川に面したところ、わたくし達は腰を下した。

僅かばかりの酒が、舌に浸み入るやうに甘く感じられた。蒲鉾に梅干といふ、貧弱な辨當であつたが、鹽の利いた握り飯のうまさはホテルの食堂で口にする食事のそれよりも遙かに勝つてゐた。

食事を終つて、腰を上げた、その下に、無殘にも踏みつぶされた龍膽の花を見て、わたくしは、なにか大きな罪を犯したやうな慚愧に襲はれて、暫し立ち去りかねた。

富雄川の堤には、滅多に人が來ないとみゐて、周の踏み場もないほど、龍膽が一面に咲き亂れてゐた。妹達は菫の花を求めて走り廻りわたくし達は赤い實をつけてゐる野生の胡頽子をもつてはロに入れ

こゝから南するにつれて法輪寺、法起寺、中宮寺、そして法隆寺がある。

法輪寺は、昔、三井寺ともいつて、聖德太子の建立遊ばされたもので、法起寺も、昔は、池後寺、岡本寺とも云ひ、太子、岡本宮のあつたところで、その三重塔は、法輪寺の三重塔と共に推古朝の建築である。

中宮寺には日本最古の織物として「天壽國曼荼羅」がある。太子の御妃、橘太郎女の作り給ふたものださ。

法隆寺へ着いた頃は、夕暮に近く、見物人の影もまばらで、茶店は店を什舞りかけてゐた。しきりに夕涼を覺へてゐたわたくし達は五重の塔の前にある茶店へ駈け込んで、澁茶をすゝり、少し落着いてから御所柿にかぶりついた。

大和ほど柿の多いところはなく、到る所で柿の本を見掛けるが、その柿の中でも、この御所柿の味は、また格別である。白衣の上に鼠色の裳を着けた雛僧が手に持つたたくさんの鍵をち

ゃらつかせながら、見物人を案内してゐる樣子を目で追ひつゝ、柿のうまさに舌鼓を打つた。

ふと、横をみると、有名な子規の句標が立つてゐる。柿喰へば鐘が鳴るなり法隆寺

丁度、そのとき、跳べばもつゝやうに、ごーんと餘韻を長くひいて、鐘が鳴つた。

ごーん、ごーん……。

わたくし達は、柿を手にしたまゝで、おつとその音に聞き入つた。いつまでも……。（完）

## 偶會

何鳴

○雲白きかゝる旦を鳥渡る
○羅のごとくに鳥の渡り行く
○たはゝなる柿の一枝を肩にせり
○山風は濤音のごと柿の秋
○しみじみと母なつかしき夜學かな
○大陸の地圖かゝげある夜學かな

△江南無錫陷落△ソ聯駐支大使ボゴモロク氏罷免され オレルスキー氏新任（昭和一一）

11月22日

孔子

## 連續講談 異說赤穗浪士

別題『異說赤穗義士』『赤穗誠忠錄』

［63］

桃川若燕 口演

### 堀切土手

『ときにもう一つ頼みたい事がある、外でもないが、拙者が首尾よく梶田松山を斬り、江戸へ立つたら、兄采女殿にこれを渡してくれ』

『承知致しました。必ずお渡し致します、就きましては梶田樣へ妻が堀切の土手に提灯を出して置くとお約束をしましたからこれから土手へ參つて仕度をして參ります、貴方樣もお支度を——』

『ウム』

『貴方は何處に在らつしいます——』

『身共は金塚の辻堂に相待つて居る』

『それでは其處へ妻がお連れ申します、それにつけても相手は二人故油斷遊ばしませんやう……』

『オ、心得た、如何なる腕利達人にせよ、敵の彌三右衛門牛太夫、決して打損ずる氣遣ひはない、ときに桃其方に安兵衛から遺物を遣はす、これは母上から頂いた守刀、唯今まで肌身離さず所持致して居つた。身共に執つてはなくしふならん寶物だ、然しお前の志は安兵衛心に刻んで忘れは致さぬ、中山安兵衛の魂をこれに籠め、其方に遣はす、其方も体を大切にせよ』

と懷中から取り出した金襴の袋中には匕首が入つてゐる。お桃は悦んで道を急いで堀切の土手へ行つて來た。

もう夜も四ッ近い。往來は途絶えて堀切の土手は森として居る。

『父上』

『何んだ』

『向ふに提灯が見えます』

『ウム』

『あれは何んでございませう』

『アレか……あれには子細の合圖の提灯だ、さては彼處で待つてゐるのだな……』

コレ金三郎、唯今まで其方に話しを致さぬが、其方も知つてゐる金塚村の蟹藏が昨夜、堀切の土手で横死を致した、聞くところに依れば金塚村の政右衛門と云ふ奴の爲め斬られたと彼れの

『貴方樣のお母樣の遺物と許塚の桃と云ふ者が申し居いふ大切な品をくださいました。それが爲め今翌松山て、どのやうにか有難う存氏と共に政右衛門を討ち蟹じます、これを貴方樣と心藏の敵を取つてやる組で得て妻が肌身離さず所持致ある、其方も今晩は天晴腕します、さはこれでお別れを……』

と名殘惜しげに歸つて行く。さすがの安兵衛武庸も女の眞情を知ると、お桃の心根を不憫に思つたが、やがて氣を取り直し、充分の支度をすると辻堂を指して舟を出す。

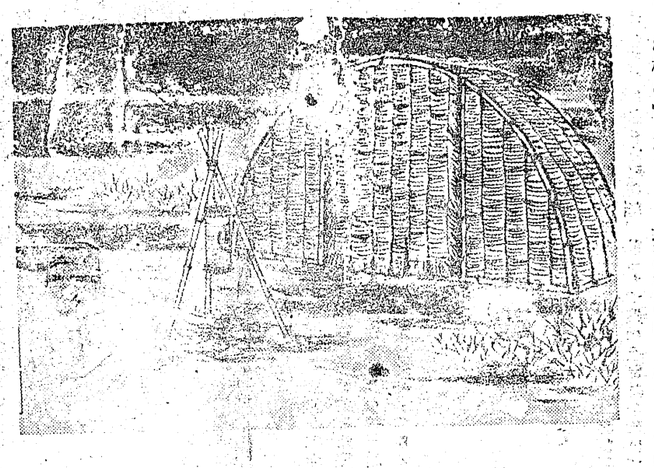
お桃は後へ心を殘して金塚村の岸邊を離れ、堀切の予て恩地先生から習ひ覺えた劍術、今宵は一ッ未熟作一字のある小さい提灯をつけ金三郎の腕前を御覽に入れ申さう』

これを聞くと親の目欲、仲の金三郎の働き振りは恩地門人中での隨一の手練で

『ハ、ッ』

『アイヤ金三郎殿お身は大分腕がお出來なさるとの事一つ今晩は美事な働き振りを見せ一頂きたひもので、本劍や竹力では本當の腕は判らぬもの、本當に人を斬つてお試し下さひ』

『松山氏よい事を承はつた、今宵は一ッ未熟作一字の蒲鉾小屋へこれを吊れ、梶田松山の來るのを待つてゐる。かゝる事とは露だに知らぬ梶田彌三右衛門、金三郎、松山半太夫　三



祝磐城毎日新聞創刊
片倉製糸紡績株式會社
平工場

祝磐城毎日新聞創刊
貴族院議員 諸橋久太郎

祝磐城毎日新聞創刊
石城銀行組合

開院
外科 内科 一般
整形外科 腸外科
肛門病 性病
レントゲン科
平市南町（平郵便局本局裏通り）
上田外科醫院
院長 上田耕作
電話一二九番

お醫油は……ヤマフル
味噌醫油 たひら正宗
鰹節 食品料
塩屋 山崎合名會社
福島縣平市
電話（營業部一〇番 本店二七番）
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

精神病科
腦育隨病科
神經病科
郡山驛より約三十丁 安積中學より約五丁
內務省指定
福島縣立代用精神病院
郡山腦病院
郡山市外大槻村針生
電話九二五番
入院隨時 院長 醫學士 金森五郎

平市南町十四番地（警察署通り角）
（舊診療所 平市六丁目）
木村外科醫院
外科 一般 內科 腸外科 性病 肛門病科
木村淳
電話三〇九番
◎入院應需

原口のラヂオ
原口無線電機株式會社代理店
古山電氣商會
平市二丁目（警察署通り）
電話（呼出）166

內臟外科
整形外科
レントゲン科
松村外科
醫學博士 松村亨
平市町南 松村醫院外科部

味自まん
米屋の最中
最中屋が飽の度び御茶受御土產として味自まんどらやきを始めました、どうぞ最中と同樣御贔負願ひます。
平驛前通り
米屋最中店

平……四倉 往復券二割引四十錢
（團体は特に御相談に應じます）
御案內 自動車停留所からの道程
☆新舞子、仁田浦へ……約二丁
☆四倉 海岸へ……約一丁
☆波立藥師、鰐ケ淵海岸へは……約八丁
合名會社 平四倉乘合自動車
電話五四九

磐城の御みやげ品
改め靈峰羊かん
名物 みやな羊羹（名產梨かん）
——赤井嶽、二ッ箭山、山祇神社參詣土產！
姉妹品
磐城耶馬溪……美山羊羹
同七濱……のり羊羹
同豐間……辨天羊羹
小川郷驛前
製造販賣元 平屋賣店

肺・肋膜・心臓・胃腸の弱い方に血となり肉ともなる……
スッポン
本生スッポンの生血・生膽を御勧め致します
平市六丁目通り
生スッポン特約養鼈場 さかいや商店
養鼈場 平市正月町一番地
スッポン黒燒、むし燒粉末もあります

國は二ッポン・魚は凍魚
日本水產特約
卸小賣 平製氷社會
ヒノマル凍魚
平代理店 四丁目 魚胴
配達ハ一尾一箱ヨ
迅速ニ致リマス。
タヒ 鯛
エビ 甘
マナ 鰹
白魚 帆立貝柱
冷カツノコ ウニ貝燒

耳鼻咽喉科 專門
平市南町一六番地
大和田醫院
（入院隨意 病室完備）
電一七〇番

新刊書籍 月刊雜誌
特價圖書販賣店
三英堂 村山書店
平市中央通（驛前通）

# 躍進「平」を語る
## HK自慢の實況放送

仙台放送局では來月上旬頃を期し前後約四十分間に亘つて『躍進都市〃平〃を語る』全國放送することに決定、河北新報平通信部の斡旋で平市及關係各方面へ接衝編輯を急いでゐる。

この情報を受けた平市當局は絶好の機會を利用し、平市をあらゆる角度から全國へ宣傳すべく長谷川視學を主任に放送準備委員會を置き「あれも、これも」と僅か四十分の短い時間に出來るだけ多く市を紹介しやうと、産業、工業、商業等各部門に亘つて萬遺漏無く材料蒐集に努める一方青沼市長の挨拶や、新田町花柳界の代表的姐さんが一平音頭「石城音頭」などを折込んで、豐かな情緒を味はせる計畫に拔け目なく、月末までには編輯を終へる見込みである、尙平市は常磐炭田の中心地にあつて、炭鑛から受ける恩惠は極めて多く、平市と炭鑛は切つても切れぬ關係にある爲、炭鑛側でも躍進平に一役買つて出ることになり、湯本町の入山炭鑛が代表して登場、坑内の出炭狀況から鑿岩機の響音を出し選炭貨車積みに至るまで斷片的に操業の實況放送を行ひこの間選炭婦の地方色濃い炭鑛節等逮く近く聽かせ入山炭鑛側も平市におとらぬやう實況放送の編輯に頭腦にしぼつてゐる

## 皇道精神發揚
### 小名濱警防團で十日間鍛錬

小名濱町警防團では過般結成を見た皇道翼贊小名濱青年隊と協力し、團員の皇道精神を發揚すべく二十日から十四圓毎晩六時を期し高木團長以下全團員全町第一小學校に參集し心身鍛錬を主眼とした教練を實施する、指導員には歸還兵立花中尉外五名を選び實踐的訓練を通じて皇道翼贊の精神を發ふ外教練終了後は團長、分團長、幹部の時局方面に對する警防精神の涵養に努め十日間を一層意義あらしめる

## 加工業の旺盛から
## 小名局の赤字
### 黑字の前提と當局樂觀

小名濱町の特産品である鰯の煩刺し製造季節に入つたのでこれが準備資金に充てる爲か小名濱郵便局の貯金拂ひ出しが目立つて多くなり十月から十一月十八日までに五萬八千餘圓の赤字を出し局員を驚かしてゐる

然しそれだけ小名濱町の水産加工業が盛んに成つて來たものであり、漁期に入ると反對に何倍かの黑字が出るものと當局も極めて樂觀してゐる

## 奉祝の武道大會

二十二日平武道會で

武德會平分會主催の皇紀二千六百年奉祝の武道大會は二十三日午前九時から平翠演武場及全翠矢場等地等利用して盛大に擧行する

參加は平市及石城郡下小學校兒童並に一般

種別は柔劍道、弓道、鉢劍術

## 共同作業場

草野産組の奉祝記念

石城郡草野村産業組合では二千六百年を奉祝組合内に利用部設を置して去る四日十坪五の共同作業所を建設十五日から事業開始した

同所では精米、精粉、精麥機を備へてあり一般村民に開放してゐるので連日利用者で賑つてゐる

## 石城産馬會で
## 市場新築

一萬餘圓で中寺へ

石城産馬組合では二十日總代會を開き皇紀二千六百年記念事業として工費一萬八百八十五圓を投じ澤渡村中寺駒籠市場を新築する事となつた既に設立認可に接してゐるので近々着工明春三月竣功の豫定である敷地は六百坪で三十二坪の事務室四十四坪の馬檢査所其他五十坪の建物を設置する

## 平署管内地區組合の
## 木炭配給きまる
### 市内は常會で購入券交附

平警察署管内各町區の木炭配給割當て數量は

平地區（一市一町十三ケ村）一萬五千俵△小名濱地區一萬二千俵△江名地區三千五百俵△湯本地區五千三百俵と決定、この内平木炭商地區十一月分として第一回二千二百俵配給された爲組合では役員會を開き協議の結果

平市一、四〇〇俵
農村外　九〇〇俵

と決定し平市内の分は百五十俵を病院、官公衛へ天引配給残りの千百五十俵を全市の常會長、班長、隣り組長を介し木炭の手持品の無い家庭へ購入證明書を與へて公平に配給する計劃の下に八十余名の組合員へそれ〴〵木炭を引渡すことに成つた、

尙十一月分残りの木炭も漸次配給する筈で極寒期には不自由かけないやう組合側が對策に腐心してゐる、

## 日素小名濱工場で
## 職場を大改廢
### 企劃部設け内容充實する

日本水素小名濱工場では先般來杉原技師長の本社榮轉、前田第三課長の勇退等相次いで異動を發表したが、杉原技師長の赴任を待つて職場の大改廢を行ない今度は技師長を置かず別に企劃部を設けて工場内各課長並に主任級から數人拔擢、工場長の諮問機關たらしむべく計劃中とめる

## 日本商業再編成のため
### 廿二條の「指導原理」

【二】

日本商報隊委員長　岡田　徹

### 經濟理念確立

五、國民經濟は個人の權利自由ではなく國家人の義務國家への奉仕として理念されなければならない、國家人に與へられた最高使命は職分を通じて綜合的な國家生産を分擔し且つ發展せしめる分身的役割りである。

六、職分的義務としての國民經濟は擔當者の創造的精神と勤勞主義の人生觀とを以て進歩の原理とする、從つて個人の創意と經濟への よりよき協力（能力の發揮）とを暢達せしめるところの正當なる「私益」を尊重する公益が私益に優先するのではなく、公益のための献身的な奉仕といふことが直接に個人の正當な「私益」に一致しなければならないと考へる。

從つて吾々は「私益」なるものは個人的に追求されるべき自由利潤の謂ではなくして個人が全體的公益に寄與した價値によつて、全體社會から再分配されるところの國家的報酬であるとする

七、日本經濟の機構は飽くまでも國民の自主的な責任感と協力者としての歡喜とを鼓動せしめるに充分な能動力を持たなければならない、拔くべからざる營利主義經濟觀との相こくによつて歪曲され、必然的に官治統制的性格を强化しつゝある現段階の日本經濟をして混亂と破綻とから立て直し防衛して、そこに國民の自主的責任體制を確立することこそ、吾々の進んで擔當すべき歴史的使命である

## 葬祭費節約

内郷高橋さん寄附

石城郡内郷村字竹之内高橋喜一さんは葬祭料を節約して金五十圓、同村御厩字下宿大山芳彌さんは金を寶却した金六圓六十四錢更に湯本町入山炭礦病院内家政婦松永カツ（四〇）さんは色々なものを節約金十圓を何れも二十一日平署を通じ恤兵獻金した

## 「地方文化の一翼たれ」
### 吉原隊矢部君・本社激勵

前略、今度建國悠久二千六百年全國津々浦々に滿る感激の秋に際會して、早くも時局の重大さに鑑み新体制の一翼たるべき國論統一の重大責務と消費節約の國策的見地より貴地に五社の發展的解消と同時に颯爽として誕生創刊せる貴社の將來と國家的貢献に期待しつゝ滿腔の敬意と慶賀を申上ぐる次第に御座候。小生御地に御厄介の折より貴社の今日あるを期待仕り其の實現の早からん事を念願致し其後に於ても之が懇念致し居りたる程に御座候、然るに今日あるは獨り貴社の躍進的將來の繁榮隆勢を見るのみならず、地方文化の飛躍的革新的新体制の基礎確立され、延ては國家のため社會のため實に慶びに堪えざるものに有之候。

當小生に對して芝引續き貴社の會長、班長、隣り組長を介し木炭の手持品の無い家庭へ購入證明書を與へて公平に配給する計劃の下に八十余名の組合員へそれ〴〵木炭を引渡す

## 落磐で壓死

赤井日曹の事故

石城郡赤井村日曹常磐坑採炭夫半島生れ光山辛德（三〇）は十九日午後零時半頃坑内で作業中落磐の爲壓死した

たる岩壁の破壊狀況に驚かされ「これは酷い」と第二期修築工事促進に盡力する旨確約したので町民は同氏の言行に期待かけてゐる

小名外三ケ村の

## 金賣却運動

二十五日小名濱で扱ふ

小名濱町及江名、玉川、鹿島の二町二ケ村では所藏金の賣却運動に乘出し、二十五日午前九時から午後三時まで小名濱町役場に七十七銀行員が出張賣却取扱ひを行ふことに決定それ〴〵町村民に呼びかけてゐる

申告書に依ると尙相當金の保有者があり成果を期待されてゐる

## 熱血を注ぐ四十餘年
## 鮫川疏水の完成
### ◇表彰された古い傳一氏の治績◇（上）

昨報の如く本縣一農業水利事業功勞者」として唯一人表彰された古川傳一氏は植田町の旧家に生れ本年五十四歳の働き盛り、「農産産業に獻身的努力を拂ひ、縣に失敗を始町自治の發達に獻身的努力を拂ひ、縣に失敗を重ねて藩政民から見離された鮫川疏水の復興には一身を顧ず心血を注ぎ今日へ導いた大恩人である

石城郡小名濱町、玉川村、泉村、藩邊村、植田町、上遠野村の二町四ケ村一帶七百町歩水田は概ね砂質地なるに加へて用水設備なく古來旱魃時には植付不能に陥り常に旱害荒廢を歎じつゝありしが明治三十一年時の郡長桐原彦吉氏地方有力家と力を戮せて右二町四ケ村を併せ藩政用水路期成同盟會を結成水路の開鑿事業を計畫し郡の勸奬により現鮫川堰普通水利組合を組織するに至る

明治三十二年工事認可と共に郡大なる期待の下に水路開鑿工事を創め前後四ケ年工費金貳拾萬十千餘圓を投じたる事業上齟齬蹉跌を來し同三十六年三月工事を了せられしも工事は全く失敗に歸し通水に耐へず一滴の水を利用する能はざる窮狀に陥りたり

縣は之が救濟の爲め明治三十七、八の兩年度に亘り災害復舊事業として前後八萬圓を投して補修施工したるも通水するに至らず遂に目的達成する能はざるに至る

爾來組合は此の廢墟を抱いて徒らに負擔に苦しみ藩政民個々の窮狀其極に達し由々數き地方問題と化し郡、縣共に之を憂ふるも施すに途なく明治四十四年に至り僅かに消極的救濟策として借權者日本勸業銀行をして債利子の一部を切捨て並に借還延期を爲さしめ、或は年賦金に對する補助を與ふるに過ぎざりしも是により藩政民は僅かに一時的活路を求むるに過ぎずして、最早水利の目的達成の望を失ひ組合は依然として塗へ難き負擔の重壓に苦しみ氣息奄々として單に水利組合の名の下に事實上負債償還の機關たる存在となり、前後參拾數萬圓の巨費を投じたる水路は土砂に埋れ塵芥に影を沒したる惨狀の儘二十餘年を經過す、偶々大正八年同水路上の落差を利用して水力發電をなし其の放水を以て藩政用水に共せんとする計畫の下に資本金參百萬圓の鮫川電力會社なるもの創立せらる。

## 玉川の村葬

二十五日學校で執行

石城郡玉川村では二十五日午後一時から小學校に同村出身陸軍伍長大竹正重、陸軍上等兵小野光兩勇士の村葬を執行する

## 農産物品評會

來月七日平第四校で

平第四小學校では農會青年團青年學校と共同し毎年鄕土展覽會即ち農産物品評會並びに成績品展覽會を展いてゐるが今年も十二月七日から三日間

## 平市一、四〇〇俵
## 農村外　九〇〇俵

## 奉祝將棋會

平將棋互樂會では二十日午前力時から市内五丁目吉田屋旅館に於て奉祝將棋大會を開催參會者五十余名に上り盛況裡に夜九時散會入賞者左の如し△一等、大塚千代吉（平）二等、岡谷勇（湯本）△三等成澤清（好間）△四等佐藤利作（平）△五等鈴木政雄（四倉）

## 平市慶弔錄

（婚姻）△平市字杉平二十番地賢治長男新妻久雄（三〇）と東京市荒川區三河島町三丁目中村市男妹ふくさん（二〇）（出生）△平市中平窪字高儘十番地相原政市四女イネ子さん△平市二丁目三十番地馬目菊次郎長男幸雄さん△平市字立町九番地大塚禮次郎次女俊子さん△本籍平市胡麗澤百二十三番地現住所栃木縣足尾町桐谷郡男長女靖子さん△平市字大町二十三番番内藤政雄長男邦宏さん△平市中平窪大須賀英一四女慶子さん（死亡）▽平市才槌小路五堀亮（三七）▽平市月見町二十七番地野木キチ（七九）▽本籍平市字長橋町二二現住地東京市荏原區目延町大谷ウタ孫和子（當才）▽平市字堂前二一番地丑之助孫渡邊美智子△平市立町九十三番地鈴木角治長女俊子（三二）△平市字胡麗澤百五十番地大方慶明（五三）△平市市紺屋町九番地高橋元吉（五三）

## 海軍志願兵の
## 徴募檢査

平市及び石城郡下の海軍志願兵徴募檢査は二十二日から三日間午前八時から平市公會堂に於て川村海軍小佐により執行される二十二日は平市二十三四兩日は石城郡下で平市は三十六人の割當に對し半數の十八人にしか達しなつ

## 天氣豫報

今晩　北の風晴一時曇
明日　西北の風晴一時曇
二十二日

潮滿　前八、二五　後九、四五　干潮　前二、二五　後三、四〇

▲一白　計畫のみ大にして實績のそれに伴ぜざる日▲二黑　目前の大利を見ながらも手出しの出來ぬ日▲三碧　至誠を以てすれば何事も順調に運び行くべし▲四綠　出先きをつゝしめば曲は順調にて心配はなき日▲五黃　外事にのみ熱中するときは内は空虛となる▲六白　午前の苦は一時のこと午後は樂となるべし▲七赤　調子に乗り過るときは意外の失敗あるべし▲八白　微の逃ひ失ぜらるべし▲九紫　破れをふくむ日增資普旅行等は見合ふべし

| 十二月 | 十三日 | 十四日 |
|---|---|---|
| 己巳 | 破 | 友引 |
| 赤口 | 先勝 | 先負 |

## 急募

一、新聞記者見習　若干名
二十才前後の意志强固なる青年

一、營業部員　若干名
年齢十八才より三十才まで

一、給仕　若干名
高等小學校卒業程度の十四五才の少年

磐城毎日新聞社


根本産婦人科醫院
平市南町
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四番
（入院隨時）

平病院（平市元共濟病院跡）
院長　醫學博士　鈴木定藏
院主
小兒科　院長　鈴木定藏
内科　副院長　高橋俊幸
外科　院長　鈴木定藏
一般内臓外科
皮膚泌尿器科
レントゲン科
物理的療法科
藥劑科　部長　吉本孝平
診療時間　毎日午前八時より午後九時まで　夜間診療に從事す（急患は此の限りにあらず）

附屬産院　新設
姙産婦入院隨意
産科
婦人科
木村病院
平市新川町
電話一六四番

内科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科
高久病院
平市田町　電話五一三番
院長　醫學士　高久忠

病室增築、手術室完備
産科
婦人科
醫學博士
五十嵐雄二
平市新川町「電話三六九番」